



アデノウイルス検出状況 (2008年～)

アデノウイルス(AD)は咽頭結膜熱(プール熱)、流行性角結膜炎、感染性胃腸炎などを引き起こすウイルスです。2008年1月以降に埼玉県衛生研究所へ搬入された検体のうち、2008年は18件、2009年は16件、2010年は現在までに4件の計38検体からADが検出されました。

ADが検出された38検体を臨床診断名別に見ると、15検体が咽頭結膜熱で、AD2が2件、AD3が6件、AD5が3件、AD-NTが4件検出されました。流行性角結膜炎の検体は4検体で、AD3、AD8、AD37、AD-NTが各1件検出されました。感染性胃腸炎の検体は3検体で、AD31が1件、AD40/41が2件検出されました。インフルエンザと診断され、ADが検出された検体は10検体あり、AD1が2件、AD2が6件、AD5、AD7が1件ずつ検出され、このうちAD2の2件はインフルエンザウイルス、RSウイルスと重複して検出されました。その他の診断名の検体は6件でした。

臨床診断名別アデノウイルス検出状況

血清型	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	感染性胃腸炎	インフルエンザ	その他
AD1				2	1
AD2	2			6	2
AD3	6	1			1
AD5	3			1	1
AD7				1	
AD8		1			
AD31			1		
AD37		1			
AD40/41			2		
AD-NT*	4	1			1

* -NT : 型別不明

現在、流行性角結膜炎でアデノウイルスの新しい血清型である53型、54型の検出が報告されています(国立感染症研究所 感染症情報センター 病原微生物検出情報)。県内での流行状況を知るためにも積極的な検体採取に御協力をお願いします。